インプラント治療のお話　part3

その5
インプラント治療最新検査方法
【インプラント治療は誰でも受けられる?】

今回はインプラント治療の最新検査方法についてお話しさせていただきます。前回までにインプラント治療最大の特徴はインプラントがご自身の骨とくっつくこと、さらにインプラントが骨とくっつく理由は、チタンという金属で出来ていることをご紹介しました。治療が終わるとインプラントに支えられた歯は食べ物をかみ切ったり、すりつぶしたり出来るということもご紹介しました。

それではインプラント治療は、希望すれば皆さん治療を受けることができるのでしょうか?答えは残念ながら受けられない方もいるのです。インプラントは骨の中にあれば周りの骨とくっつくとご紹介しましたが、ご自分の顎骨がインプラント治療に不足していればインプラントは骨と十分にくっつくことが出来ません。ですからインプラントとくっつく骨があるかどうかを検査しなければならないのです。もちろん骨だけの条件で治療が決定する訳ではありませんが、大きな要素として骨の量があります。単純に骨の量といっても骨の長さや幅、神経や血管との距離などがあり実に複雑です。骨に関する検査方法をご紹介します。

今までの一般的な歯科治療は平面のX線写真があればかなりのことが判断出来ました。しかし、インプラントは立体的な顎骨の中に埋める手術をするのです。当然これまでの平面でのX線写真では情報が足りません。そこでCT撮影ということになるのですが、これまでは外部の総合病院へCT撮影を依頼するといったことが行われてきました。それに伴う不便さを考えればやはり自分のところにCT撮影の装置をと考えて歯科専用のCT撮影装置を設置する歯科医院が増えてきています。最新のCTは撮影後すぐに立体の画像を作り簡単に観察しただけで、骨があるかどうかが分かります。もちろん骨だけでなくて歯や歯根の状態も一目瞭然です。これで検査をすればインプラント治療が出来るかどうかが分かりそうですが、そうはいきません。インプラントは骨の中に埋めるのですから、どの位置に、どの方向で、どのくらいの長さや太さのインプラントを埋めるかを詳細に決めないと判断出来ません。実はこれらも今では最新のコンピューターソフトでCTのデータをもとに画面上でシミュレーション出来るようになっています。手術をする前にすでにインプラントの位置を歯科医が決定して、侵襲の少ない手術が出来るようになっています。こういった検査機器やオペシミュレーションソフトなどインプラント治療は本当に日々進歩しています。従来の方法に比べれば、より安全性に配慮され、長時間の負担が抑えられた痛みのなるべく少ないインプラント治療が歯科医師や研究者の努力によって少しずつ達成されているのです。次回以降、進歩している今のインプラント治療について詳しく説明させていただきます。

伊藤創造(いとうそうぞう)

岩手医科大学歯学部卒業、大学院でインプラントに関する論文で博士号を取得。その後、岩手医科大学歯科補綴学第二講座の講師として臨床等で活躍。1991年にトロント大学に留学。2014年におゆみ野インプラントセンターを開設。
岩手医科大学臨床教授、日本補綴歯科学会・指導医、日本顎顔面補綴学会・認定医、日本歯科審美学会・認定医。国際口腔インプラント協会(IDIA)・Mastership。

おゆみ野総合歯科クリニック
☎043-300-3939